

横浜バスティン研究会 活動報告 2015年2月19日(木)
「バスティン♪ ピア・ラーニング」

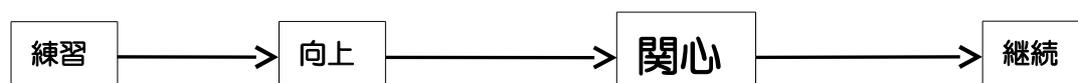
今月の研究会は「バスティン♪ピア・ラーニング」と題し、教材研究から離れたテーマで会員の先生方に発表していただいたり、一つのテーマについて皆さんでディスカッションする場となりました。

1 「プレ・セオリー」 綿貫紀美江先生

パーティーシリーズより「聴音・楽典パーティー」の中で扱いにくいものについて、疑問を投げかけ皆さんの対応をお聞きする機会となりました。特に話題になったのは、レッスン時間の中で毎回セオリーを扱うか？また扱う場合、何分程度なのか？どこまで理解を求めるか？この機会に皆さんの悩みと共に、新たな考え方も広まったように思います。

2 「ステージと教室の関わり、保護者への言葉かけ」 中村雪子先生

会員の中でも、ステップその他のステージへ多くの生徒さんを参加させている中村先生。どのように、ステージへの参加を勧めているのか、今までのご経験からのお話を伺いました。



「年に2回のステージが目標」とされる中村先生。ステージへの参加の度に我が子の「向上」を感じてもらい、常に子供のピアノへの「関心」を引き寄せることがレッスンへの継続に繋がるとのお話がありました。ステージは習慣なので小さいうちから慣れさせておくこと。それぞれの生徒のレベルに合わせ、取り組みやすいステージを提供するよう心掛けているそうです。

3 「音楽を良いパートナーとして継続、成長していく生徒を育てるレッスン」

その① 「生徒がピアノを辞める理由」から継続のヒントを探る（ディスカッション）

今回は会員の皆さんからアンケートでお答えいただいた「生徒が辞める理由」の内容を参考に話し合われました。生徒の年齢によっても環境が違うため、一概には話がまとまりませんが、その中から特に大きく環境が変わる「中学生の辞める時」を中心に皆さんで意見が出されました。「何を持って卒業と考えるか？」レッスン終了を考える生徒側の様々な理由、またそれらを受け止める指導者の思いなど、広く皆さんの経験をお聞きすることができました。

4 ゲッツ紹介 緑川真由美先生



練習の回数をカウントする「ビーズカウンター」
モールでできているのでビーズが簡単に動かないようになり、クリップ部分で楽譜に止められるようになっています。
これで、回数をこなす練習も楽しめそうですね！

(文：横浜バスティン研究会 斎藤美帆)